

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.41 2018.2.14
TEL 71-2466

明科公民館歴史講座

東山魁夷と明科

明科公民館歴史講座「東山魁夷と明科」が、12月12日に明科公民館講堂で開催された。講師に細川修さん（元明科高校校長）と西村永明さん（前明科支所長）を迎え、72人が参加した。



細川さんは、開校間もない明科高校に校長として赴任。高校敷地内に自然豊かな庭園「平成の森」を地域の寄付協力により完成させた。そこに画家東山魁夷自身が書いた書簡の一節「次代を荷う皆さんは、あの安曇野の美しさを長く伝えて下さるようお願いいたします」と刻まれた「文学碑」が建てられた。その建立経緯や高校生との交流、魁夷の人柄、文学碑の原文の揮毫にあたり安曇野の水で墨をすったことなどを語った。また作家の川端康成や井上靖と3人で長峰山に立っていたいきさつや随筆「安曇野への旅」の内容

にふれ、長峰山からの眺望と自然の素晴らしさに対する魁夷の感動も語った。

西村さんは職員として町制施行40周年と長峰山山頂石碑建立・整備に関わった。明科高校



5周年記念式典に招待された魁夷夫人を当時の町役場職員が長峰山に案内し、魁夷夫人を通して40周年記念碑建立の願いを伝えた。その後、千葉県市川市の東山宅を訪れ、承諾を得て、長峰山頂に魁夷の文学碑「安曇野を想う」が建立され、明科に魁夷の石碑が2つある謎を語った。

歴史講座に併せて、公民館ロビーでは、魁夷から明科高校に寄贈された数々の版画作品や関連書籍などを展示。豊科からあづみん（デマンド交通）を利用して来られた60代女性は「優しい人柄が絵に表れていて心が癒されます。出会いや交流が大変良く分かり、良かったです。」と微笑んでいた。

（静流）

豊科公民館教養講座

楽しい菊作り講座

豊科公民館では、光区の鈴木輝彦さんを講師に21人の受講生を迎え（うち初心者13人）、4月から10月まで全6回で「楽しい菊作り講座」を実施した。11月には、長野市善光寺の信州秋香会菊花展や須坂市臥竜公園の信州須坂大菊花展の見学も行った。

講座第1回は、菊作りの概要や必要なものについての講義があった。第2回は「挿し芽」で、挿し穂の選び方や作り方を学び、発根剤を付けて1人10本の挿し芽をして持ち帰った。第3回は「培養土作りと鉢上げ」「摘芯のやり方」と内容が豊富だったが、この講座受講が2回目、3回目という経験者のアドバイスがあり、自分で挿し芽をした菊苗を5号鉢に鉢上げすることができた。摘芯は、芯の見極めが難しく苦労していた。第4回は「誘引と定植」で、前回摘芯して3本に伸びた芽を用具を使って整枝して



第2回 「挿し芽」

第2回 「挿し芽」

第3回 「摘芯」



学と柳芽の処理」で、豊科地域の菊づくり先進地のクラブ員のお宅に伺い、手入れの仕方や栽培環境についてお聞きした。第6回は「輪台の取り付けと冬越しのやり方」で、自分が育てた菊から挿し穂を取って菊作りをするというサイクルを学んだ。各回とも鈴木さんがポインントを板書し実習の理解を深めた。受講生同士が助け合っている、初めての受講生も最後まで頑張り見事な大輪菊を咲かせ、受講生全員が豊科地域文化祭菊花展に出展することができた。



第6回 「輪台の取り付け」

地区公民館だより

矢原地区公民館(穂高)

矢原地区は穂高地域の南端に位置し、国道147号周辺の商業施設地帯と東側の田園地帯に囲まれた住環境にあり、隣組加入世帯数は328戸、人口は約1000人となっている。地区には古くから矢原神明宮が鎮座し、祭神は天照皇大神と白山比売大神の二柱が祀られている。秋の例大祭では、昔から継承されている神に奉納する祭り喋子を「しゃざり保存会」の子ども達が演奏し、その笛や太鼓の音に合わせお舟が曳航され、盛大に行われる。



公民館組織の公民館役員及び各部署員は、区総代及び各隣組長夫婦で構成され、区と公民館事業を兼任で行っている。穂高公民館主催の行事には出来る範囲で参加している。地区対抗バレーボール大会では昨年に続き優勝し、2連覇達成の喜びを慰労会で冷えたビールを味わい語り合った。信州安曇野わさび祭りでは、子どもを含む42人が

赤のTシャツの「矢原連」をつくり、瞳を輝かせた子ども達と夏の夜を乱舞した。

矢原地区は、春の子どもの日祝賀会から冬の三九郎まつりまで様々な行事を実施し、区民相互の親睦を深めている。今年度は、初めての試みとして「矢原地区歴史探訪ウォーキング」を春と秋の2回に分けて行った。春のコースでは主に研成義塾跡地(明治31年に井口喜源治によって創設され、子ども達に教育を始めた地)と萩原礫山の生家(明治42年、30歳の短い生涯を閉じた日本近代彫刻開拓者)を訪ね、その功績と時代背景を学んだ。秋のコースでは主に矢原文化財保存館を見学して、矢原地籍がかつて海だった地殻変動の時代から縄文時代までの勉強をし、今から364年前に、田畑の水の確保に矢原堰を築いた白井弥三郎の偉業に感銘を受けた。子どもを含めた75人の参加者は、地区内の3人の講師の丁寧な話を聞き、貴重なひと時を共有した。公民館活動を通して、区民の絆を深め地区の活性化を図ることが、役員一同の努めであると認識している。



矢原文化財保存館

(矢原公民館長

小林三夫)

古きを尋ねて

27 柏尾の風神祭り

(明科・潮沢)

明科東川手の国道19号の木戸から東に折れ国道403号線に入った山間の地域である柏尾集落には「風神祭り」という春彼岸の中日に行う祭りがある。この祭りは、風神様と呼ばれたり、百満遍と呼べられたりする。



風神様

と呼ばれる人形は、藁で人体を模した形を作り、手を前で作らせ、白紙で覆われ

れた顔面にそれぞれ男女の顔を描く。白装束の着衣には風、〇に十字、家紋、名前、願い事などを書いて、組ませた手には米の入りたおひねりを持たせる。この手づくりの藁人形をお酒と共に高台にある大日堂にお供えて、一年の安寧を願い御経をあげる。災厄を移した藁人形は堂の外の崖側に並べて立てられ、広場では無病息災を願った宴が催される。祭りの後、人形に持たせた米のおひねりをそれぞれが交換して



持ち帰り、その米を食べればその年を平穏に過ごせると伝えられている。並べられた人形は、持ち寄った人々の身代わりとなって災厄を負うといわれ、そのまま風雨にさらされながら朽ちていく。

この風神祭りは、70年程前には盛大に催されていたといわれているが、高齢化による後継者不足から、平成23年は中止された。しかし、翌年の平成24年3月21日に、保存、継承を望む有志により再開された。

彼岸に藁人形を使うお祭りは大変珍しく、明科大足区清水や筑北村本城、長野市大岡など県内の一部の地区にしか残っていない。近頃は、報道機関で取り上げられ、この祭りが知られる所となり、地区の住民のみならず、継承に賛同した地区外、遠くは県外からの参加者も見られるようになった。平成29年3月20日の風神祭りは、そのような参加者が多くあり、大変にぎやかで和やかな宴となった。今年、3月21日も多くの参加者を待っているとの事である。

(静流)



ほりがね
「満蒙開拓の歴史」を学ぶ

堀金公民館は11月20日、満蒙開拓青少年義勇軍入植者であった堀金在住の内田辰男さんを講師に迎え、満蒙開拓の歴史を学ぶ講座を開催し、21人が参加した。

当日の朝、会議室で事前学習として内田さんの体験談を聞いた。その後、マイクロバスで阿智村の満蒙開拓平和記念館を訪れ、満蒙開拓の歴史を学び、戦争と平和について見識を深めた。

参加者は、平和である尊さをかみしめながら、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぐことの大切さを確認し合った。



とよしな
短歌・俳句大会

豊科地域文化祭の短歌大会（通算56回目）が11月11日に行われた。15人からの出詠があり、厳粛な雰囲気の中で選歌が進み、最後は互選により入賞作品の発表と講師の講評があった。

俳句大会は11月19日、午前中にジュニアの部（市内小・中・高校生）



の表彰式が行われた。1132人から1877句の投句があり、26人が入賞した。選者を代表し小林貴子さん（俳句雑誌「岳」の編集長）から入賞した句について、それぞれ講評があった。

ほたか
京のおばんざい料理

穂高公民館は12月15日、高瀬美幸さんを講師に招き、4回目となる「季節の家庭料理教室 京のおばんざい料理」を開催した。



今回はおせち料理で、伊達巻、紅白肉巻、フルーツきんとんを調理した。

参加者は、高瀬さんからそれぞれの料理のコツを聞きながら賑やかに取り組んだ。また、野菜の皮など食材を余すことなく使い切り、サラダなどの一品に仕立てる方法も学んだ。「先生の話が面白い」「伊達巻が手軽な材料で作れて良い」「おいしく見た目の良い料理が作れた」などの感想があった。

あかしな
正月の生け花講座

明科公民館創作室で12月26日「正月の生け花講座」が開催された。講師の細川留美子さんは華道池坊の歴史や流派の違いを手短かに講義し、お手本の「自由花」の生け方を示した。13人の受講者は、お手本を参考に生け込みを開始。仕上げ後は、講師から手直



しを受け、さらに見栄えがよくなった。華やかな香りが漂う中、個々の感性で自分だけのお正月の生け花ができた達成感があった。また、お互いの作品を見合った後の驚嘆や微笑みが印象的だった。（静流）

みさと
元日ウォーキング

三郷公民館は1月1日午後1時、同館から住吉神社まで初詣を兼ね往復約4キロの「元日ウォーキング」を開催し55人が参加した。準備体操の後、やや肌寒いですがすがしい元日の空の下、公民館長を先頭にウォーキングを開始した。

ただ歩くだけではなく、館長による境内の建物や石像、住吉神社の歴史の説明を聞いて、学びの始めとなった。

神社前の榎農村公園のほとりに、県歌「信濃の国」の作詞者である浅井冽書の日比野允敬筆塚があり、この地にゆかりがあることや「信濃の国」が県歌制定50周年になることを紹介した。（東山路）



豊
美々加
花：ネギ

私は一生懸命

平倉勝美さん (堀金)

堀金烏川の倉田地区に1時間だけ開くモーニングコーヒー店がある。倉田構造改善センターの玄関先で、月2回、第1・3土曜日に開店するスタンド店だ。

倉田地区のゴミの収集場所は、同センターの1ヶ所で、区民のみなさんは土曜日の朝7時から8時までの間、プラスチック製容器包装のゴミを出しに来る。「そつだ、土曜日この時間に、ゴミを出しに来た人たちに、コーヒーを出してみよう。交流の場になれば良い

グループ紹介

ひびき三郷句会(三郷)

俳句グループ「ひびき三郷句会」は、三郷公民館を拠点に月1回、第3水曜日の午後に活動している。平成10年

従来「三郷句会」を引き継ぎ「ひびき三郷句会」として今日に至る。



あづみ野エフエム放送の「祇亜紀の万華鏡の

なあ。地域づくりに少しは貢献できるかも」と考え、倉田に住む仲間3人で平成26年11月からモーニングコーヒー店を開店した。冬の朝は、まだ暗いうちから、寒い日も、暑い日も、そして雨の日も、心を込めてコーヒーをいれてきた。怪しげなことをやっているなと、寄らずに帰ってしまう人がまだ多いけれど、だんだん浸透してきた。



1時間の間に、20人から30人位がコーヒーを飲み立ち寄ってくる。コーヒー代は基本として頂しなく」という番組の俳句会を担当していた塩尻市の塚越里子さんを講師に迎えて指導を受けている。会員は50代から80代まで15人が在籍し、例会は90%の高い出席率を誇る。日常の生活の中で俳句を詠みながら書きとどめ、例会に3句を持ち寄り発表している。全員が発表したすべての句の中から各人が秀逸1句、佳作4句の5句を選び評価するが順位はつけず、得点の集計もしない。形にとらわれ過ぎないように例会は雑詠で行っているが、作品は例会の季節にあつた季語を使った句を発表している。また年1回、吟行を実施している。明科の天平の森や有明山神社周辺の歴史を訪ねた。今年

かないが「50円以上入れないで下さい」と書いたカンパボックスを置いてある。50円入れた場合は20円を返している。ここからも会話が生まれる。1時間で150円から300円位のカンパがあり、これで何とかやりくりしている。仲間3人は、何より喜んでくれる人がいるということやコーヒーを飲んでいる人同士の会話があることがうれしくて張り合いがあり、今まで楽しくやってきた。そのうちに、一緒にやってくれる人が出てくるかもしれない。また、区民・倉田地区公民館関係者の理解がありがたい。良いことは、どんどん広がれ！小さなことから、行動！理屈より、行動！

桜の季節に吟行を計画している。毎年、初句会では例会に続いて新年会を開き親睦を深めている。他の年間活動として三郷地域文化産業展に出品し、地域の人達に活動成果を紹介している。

正月の一句
安曇野に鳶とび一羽舞ふ淑気しよくかな

殺伐とした世の中で、俳句を作ることで季節の移ろいに目を留め、風の音に耳を澄ませ、森羅万象に寄せる思いを忘れることなく過ごせば、みずみずしい心を持ち続けられるであろう。(東山路)

(会長・柳澤寿重
090・5506・4657)

◆ 檮、杉、檜、樺、朴、枳、木偏の漢字は身近にたくさんある。人の暮らしになくてはならないものなのだろう。檮、林檎、さて書けるかな？(K・T)

◆ 竈神様のお札を新しくした。竈神様は、荒神様とも書き、火の神様だそう。昔から竈の近くにおまつりし、日頃から火災予防を願う風習であった。竈からガス、IHと台所の熱源が変わっても、赤緑黄、三色の御幣は変わらぬ姿で私たちを見守っている。(A・Y)

◆ 正月に30数年振りにエイブル白馬五竜スキー場に行った。道具のレンタルに30分、靴を履くのに30分と悪戦苦闘であった。ゲレンデに出ると快晴で気持ち良かった。リフトに1回も乗らず時間が来てしまった。懲りずに今シーズン中、あと2回行こうと思っっている。(H・N)

◆ 平成も元号の区切りを迎える時が決まり時代は節目に向かい進んでいる。東京五輪が開催される時期には漢字2文字の新しい元号になじんでいる頃だ。年の終わりと新しい年が続くのは世の常だが締めくくりと始まりを知る機会に思いを促しているようだ。(T・Y)

◆ 初詣は、除夜の鐘が鳴る頃に地元の廣田神社に向き、元日夕刻に家族で穂高神社に参拝するのが恒例行事となっている。おみくじも年初の慣行となり、何十年ぶりかの「大吉」を引いた。一瞬、驚きと幸せ気分を味わった。(S・M)